

消化器・肝臓センター

NEW 一す

NO. 28

2017.10

潰瘍性大腸炎に新たな治療薬が 保険適応となりました

潰瘍性大腸炎(ulcerative colitis:UC)は大腸粘膜を直腸側から連続性におかし、しばしばびらんや潰瘍を形成する原因不明の非特異性炎症であります。

(炎症性腸疾患診療ガイドライン2016引用)

潰瘍性大腸炎の治療薬として5-ASA、ステロイドなど様々ありますが、その内の潰瘍性大腸炎の中等症から重症の治療薬として保険適応となりました、シンボニー皮下注製剤(ヒト型ヒトTNF α モノクローナル抗体)を紹介します。

特徴

- 抗TNF α 製剤は抗製剤抗体の発現により効果が減弱することが言われているが、同製剤は抗体発現が低減できる可能性があり、長期使用しても効果が落ちない可能性がある。
- 下記のように初回は200mg,初回投与2週間後に100mg,初回投与6週目以降100mgを4週に1回投与する皮下注射製剤です。



このように潰瘍性大腸炎治療薬の選択肢が増えました。

潰瘍性大腸炎は比較的若年に発症し、10歳代後半から30歳代前半に好発することが知られていますが、高齢発症も決して稀ではありません。近年高齢者人口増加も加え、有病者が高齢層へ移行していくことも予想されております。

腹痛、下痢、血便などがあるようでしたら大腸内視鏡の検査をお勧めします。

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

消化器内科
青井健司

